

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：県産材流通対策費

事業名【新】薪の広場支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 県産材流通課 資源活用係 電話番号：058-272-1111(内4363)

E-mail：c11545@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,500 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,500	750	0	0	0	0	0	0	750
決定額	1,500	750	0	0	0	0	0	0	750

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

【現状】

近年、薪の需要は、ピザ窯やパン窯用等としての利用、薪ストーブの普及やキャンプブームを背景に増加している。

しかし、薪原木の高齢林化に伴い大径化しており、小規模の事業者は大径化に対応していない施設や装置を使用しているため、事前に人力で加工する必要があり、生産量を増加させ需要に対応することができていない。

【課題】

- ・大径化した原木を処理できる施設の整備が必要。
- ・生産性を上げるには、人力作業の低減を図ることが必要。
- ・国による支援制度はあるが、対象事業費の下限（事業費3,000千円以上が対象）が定められていることから、小規模の事業者や新規参入する事業者は、国の支援を受けることが難しい。

(2) 事業内容

薪の生産拡大のため、国の補助事業の対象とならない小規模の薪生産者等が導入する薪生産に必要な設備（大径化に対応した薪割機、ホイストクレーンなどの省力設備、薪用保管かご等）の整備を支援する。

補助対象者：薪等生産者

補助要件：事業費300万円以下

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率 1/2以内(国事業に準ずる)

(4) 類似事業の有無

有：林業・木材産業循環成長対策交付金(国)(事業費300万円以上が対象)

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	1,500	薪割機、薪用保管かご等
合計	1,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県特用林産の振興方針(キノコ類); R2~R6年度

4. 各分野における基本戦略

(1) 生産資材対策

県内の森林資源を最大限活用するため、県産原木等の利用促進、(中略)を強化していく。

目標：令和6年度まで4,658tのキノコ生産量を維持することを目指す。

令和5年度中に岐阜県特用林産の振興方針(キノコ類)の改正予定

- ・期間 R2~R6 → R6~R8
- ・キノコ類のみでなくキノコ以外の特用林産物を追加

(2) 国・他県の状況

国：林業・木材産業循環成長対策交付金

宮城県：山の幸振興総合対策事業

(3) 後年度の財政負担

岐阜県特用林産の振興方針(改正手続き中)の計画期間である令和8年度まで実施し、終年度中に必要な検討を行う。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：薪等生産者、薪等流通業者

自伐林家や木材伐採事業者が経営の多角化を進め、経営の安定化を目指すことと、広葉樹資源のカスケード利用※を推進するために、事業主体を薪等生産者、薪等流通業者とすることは妥当。

※木材を建材等の資材として利用した後、ボードや紙等としての再利用を経て、最終段階では燃料として利用すること。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	薪の広場支援事業費補助金
補助事業者(団体)	薪等生産者 (理由) 薪等生産者：伐採から薪生産まで一貫した作業が可能で、継続した生産販売が行えるため。
補助事業の概要	(目的) 広葉樹資源の大径化が進んだことから、大径化に対応した設備への更新による供給量の増加、人力での作業を機械化することによる労務の軽減を図る。 (内容) 薪生産者等が薪生産に要する施設整備に対して支援する。
補助率・補助単価等	定率 (内容) 1/2 (理由) 国庫補助事業に準ずる
補助効果	薪等の供給量が増加することにより、安定的な供給体制の整備を図る。
終期の設定	終期 令和8年度 (理由) 岐阜県特用林産の振興方針の終了が令和8年度のため。

(事業目標)

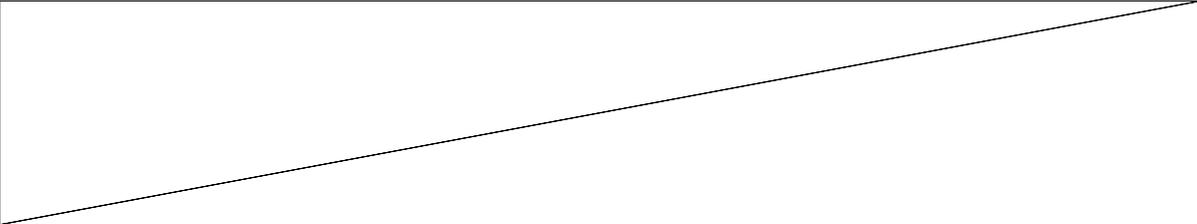
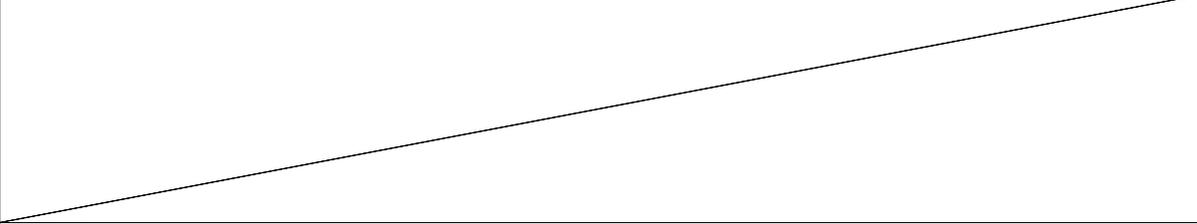
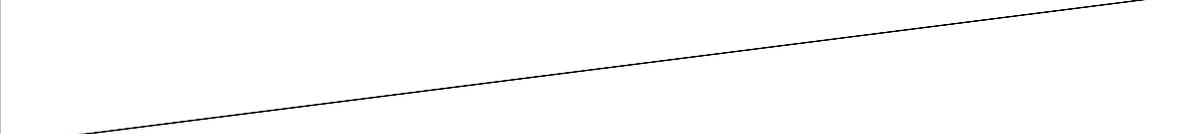
・終期までに何をどのような状態にしたいのか 広葉樹資源のカスケード利用による、木質バイオマス利用量の増加

(目標の達成度を示す指標と実績)

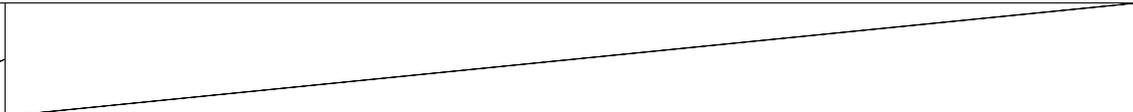
指標名	事業開始前 (R2)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①木質バイオマス 利用量(千m ³)	128	121	154	194	250	48%

補助金交付実績 (単位：千円)	R2年度	R3年度	R4年度
	-	-	-

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 3 年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 4 年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>薪の需要は増加しているため、供給体制を増加させる必要性は高い。 また、広葉樹のカスケード利用を進める面でも必要。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 安定的な供給体制の確立と、広葉樹1本から用材、薪、チップ等のカスケード利用の推進が必要である。 乾燥した薪が供給と末端ユーザーに対しての品質説明が求められる。</p>
<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 広葉樹資源を有効利用するため、今後も支援は必要である。</p>